「MBA のためのケース分析」

著者：小樽商科大学ビジネススクール
出版：同文舘出版
発行：2010年10月



大阪商業大学の起業教育研究会において産業能率大学教授　小林昭文様による「『主体的・対話的で深い学び』を実現する起業家精神！教科授業そのものを起業家教育に！』の特別講演が行われました。授業改善が急務である今こそ、教科のカリキュラムデザインが必要になっています。生徒たちに興味関心を持たせ、身につけた知識をどのように活用させるのか、また生徒たち自身が疑問を持ちどのように考え抜く力を養っていく授業を展開するのか、深く考えさせられました。以前から、活用してきた「MBA のためのケース分析」をもう一度熟読し、教材をリニューアルしていく参考にしたいと考え、授業にどのように活用してきたかもご紹介させていただければと思います。

既に読まれた方も多い一冊だと思いますが、アクティブラーニングによる授業改善が叫ばれる昨今だからこそ、今一度読み直して頂ければと思います。

ビジネス系の授業においてグループワークを取り入れておられる方も多いと思います。講義型の授業から知識を活用する授業への転換として、ケーススタディを取り入れ授業を展開しています。題材としては、身近で取り掛かりやすい題材が望ましいでしょう。本著書では、過去10年間で累積黒字を積み上げている「良品計画」を取り上げています。無印良品は1980年に、「本質においては高品質、無駄を省いてわけあって安い」をコンセプトに開発された総合スーパー西友のプライベートブランドでした。2000年以降、ユニクロや100円ショップをはじめとする低価格訴求型の競合他社との競争が激化し、コンセプトからずれた商品開発、ブランドの陳腐化、不良在庫といった問題が噴出し、売上高・利益ともに大きな低下を招くことになってしまいました。奇跡とも言える業績のＶ字回復を成し遂げるために用いられた戦略を、あらゆるケースで紹介されています。ビジネスの中では、意思決定をする場面が多くあり、現在の経済状況であればどのような意思決定を行うのか、またそのように決断したのはどのような理由からなのか、結果としてそれが正しいのか、を考えさせる授業を展開することができます。

また、会計的な視点から分析できるように財務諸表の分析ツールも紹介されています。簿記を学ぶ商業系の生徒たちにとっては、普段の授業で学んだ知識を活用することができる場面となります。マーケティング・マネジメントからの視点も紹介されており、内外の要因を分析しあらゆる資源をどのように活用していくのかを考えさせることができます。結果、身の回りにどのような資源があるのか、現状を把握し新たなビジネスアイディアを考えるきっかけを与えることにもつながります。起業家教育を行うにあたり、必要な知識や考え方を身につけ視野を広げることもできると感じております。

繰り返しになりますが、もう一度読み直してみて現状の題材に当てはめてみても面白いのではないでしょうか？

起業教育研究会　企画委員
大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校　商業科　大中真太郎